

令和5度「文化芸術による子供育成推進事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな	かぶしきがいしゃ でんとうげいのうおふいす	団体ウェブサイトURL
制作団体名	株式会社 伝統芸能オフィス	
代表者職・氏名	代表取締役 中坪眞	
制作団体所在地	〒 221-0822 最寄り駅(バス停) 東白楽駅 神奈川県横浜市神奈川区西神奈川1-15-2 パーソナルハイツ東白楽101	
電話番号	045-324-3421	
ふりがな	いっばんしゃだんほうじん みやけきょうげんかい	団体ウェブサイトURL
公演団体名	一般社団法人 三宅狂言会	
代表者職・氏名	代表理事 三宅右近(和泉流狂言方)	
公演団体所在地	〒 176-0021 最寄り駅(バス停) 富士見台駅 東京都練馬区貫井3-22-2	
制作団体 設立年月	昭和51年4月	
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等
	代表取締役 中坪眞 取締役 中坪一世	40名(落語家、狂言師、音楽家など) 制作スタッフ:13名 舞台スタッフ:10名
事務体制 (専任担当の有無)	専任の事務担当者を置く	本事業担当者名 中坪眞
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名 中坪一世

<p>制作団体沿革</p>	<p>●(株)伝統芸能オフィス(通称・日本伝統芸能を守る会)・沿革 ○昭和43年糸あやつり人形結城糸女子一座(ゆうきしめこ)沖縄公演(沖縄復帰以前)に ○昭和47年全国の小中学高校の児童生徒対象に日本の伝統芸能(落語、能狂言、邦楽など)芸術鑑賞教室を始める。落語は学校寄席、わんぱく寄席で定着 狂言は和泉流、大蔵流で狂言鑑賞教室を全国展開。 昭和51年4月 株式会社ナカシン設立。 昭和64年 横浜博覧会、名古屋デザイン博、岐阜未来博の制作に携わる 平成 8年 江戸東京博物館こけら落とし公演 芸能屋台村企画江戸芸能時空旅行「Back To The Edo ～バック・トゥ・ザ・江戸～」 平成 9年 創立25周年を迎える 平成11年 国際交流基金の派遣で中南米各国において「芸能屋台村」を公演 平成12年 文化芸術祭「芸能屋台村」で参加 平成14年1月 株式会社伝統芸能オフィスに社名変更 通称「日本伝統芸能を守る会」 平成14年 国際交流基金派遣で三味線と和太鼓の公演(ごちえもん) 平成23年 ILO(国際労働機関)京都会議へ狂言で参加 令和 4年 創立50周年を迎える</p> <p><受賞歴> 平成16年 アフリカ民族音楽「アフリカンドリーム」厚生労働省社会審議会児童福祉文化財に推薦 平成19年 「わんぱく寄席」厚生労働省社会審議会児童福祉文化財に推薦 平成25年5月「わんぱく寄席」厚生労働省社会審議会児童福祉文化財に推薦 平成25年5月日本伝統芸能を守る会 長年にわたって 日本の伝統芸能を子どもたちに普及し、 児童の健全育成に貢献してきた活動にたいして 厚生労働省児童福祉文化財特別部門受賞</p>	
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>昭和47年より現在まで10000校以上 年間150校の学校での公演実績</p> <p>文化庁 平成17・18年「本物の舞台芸術体験事業」 文化庁 平成20年21年22年「本物の舞台芸術体験事業」 文化庁 平成23年「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」 文化庁 平成25年「次代を担う子供の文化芸術体験事業」 文化庁 平成26年「次代を担う子供の文化芸術体験事業」 文化庁 平成27年「文化芸術による子供の育成事業」 文化庁 平成28年「文化芸術による子供の育成事業」 文化庁 平成29年「文化芸術による子供の育成事業」 文化庁 平成30年「文化芸術による子供の育成事業」 文化庁 令和元年「文化芸術による子供育成総合事業」 文化庁 令和2年「文化芸術による子供育成総合事業」 文化庁 令和3年「文化芸術による子供育成総合事業」</p> <p>平成23年北区文化振興財団「親子で楽しむ狂言」</p>	
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>北海道余市養護学校しりべし学園分校 香川県立善通寺養護学校 横須賀市立ろう学校</p>	
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>
<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://www.youtube.com/watch?v=SrlThg-key4</p>	
<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	<p></p>
<p></p>	<p>PW:</p>	<p></p>

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 一般社団法人 三宅狂言会 】

対象	小学生(低学年)	○			
	小学生(中学年)	○			
	小学生(高学年)	○			
	中学生	○			
企画名	児童生徒が創り上げる 狂言「茸(くさびら)」				
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>第1部</p> <p>1、狂言解説 ～狂言ってなんだろう?～</p> <p>2、狂言『盆山 ほんさん』</p> <p>3、狂言体験 ～僕も私も1日狂言師～</p> <p>+++++ 休 憩 (15分) +++++</p> <p>第2部</p> <p>4、狂言『茸 くさびら』—大勢狂言— 児童生徒たちと共演</p> <p>出演:三宅狂言会 キノコ役…児童生徒12名 鬼茸役…学校の先生</p> <p style="text-align: right;">公演時間 90 分</p>				
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名		
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況		
演目概要	<p>1、狂言解説～狂言ってなんだろう?～(詳細は別添へ)</p> <p>はじめて狂言を見る児童生徒にもわかるように、狂言はいつから演じられているの? 狂言の特徴は?など、狂言についてわかりやすく解説します。</p> <p>2、狂言『盆山 ほんさん』</p> <p>狂言の特色である、所作、セリフ、擬音など総てが盛り込まれた作品で、初めて狂言を鑑賞する人にも楽しめる作品です。</p> <p>児童生徒は想像力を補いながら舞台を楽しむことができるシンプルながらわかりやすい演目です。</p> <p>※「盆山」あらすじは別添へ</p> <p>3、狂言体験～僕も私も1日狂言師～</p> <p>より狂言に親しんでもらうために、狂言のセリフや擬音、動物の鳴き声などを全校生徒で体験していただきます。</p> <p>また、全員で謡『兎(うさぎ)』を大きな声で謡います。</p> <p>4、狂言『茸 くさびら』—大勢狂言— 児童生徒たちと共演</p> <p>狂言『茸』では、児童生徒が主役となって、狂言師と共演を果たします。鬼茸役で先生も参加。主演する児童生徒だけでなく、観客の児童生徒全員で世界にひとつの舞台を創り上げます。</p> <p>※「茸」あらすじは別添へ</p>				

<p style="text-align: center;">演目選択理由</p>	<p>狂言はユネスコ無形文化遺産の第一号として登録されており、伝承すべき日本の文化の一つです。「狂言」などの伝統芸能は難しいと思われていますが、順応性のある児童・生徒は、わからない言葉があっても役者の動きや表情を読み取って理解し、狂言独特の空気を自然と感じ取って楽しむ能力があります。今回は特に児童・生徒達にわかりやすい演目『盆山』と、児童・生徒と狂言師が共演して創り上げる『茸』の2つの演目を選びました。</p> <p>狂言『盆山』では、日本語の特徴である擬音(オノマトペ)がふんだんに使われているため、児童・生徒にもわかりやすい内容になっています。室町時代の擬音と今の擬音とは少し違っていることにも注目してみると、時代によって日本語が変化していることに気づけます。</p> <p>狂言『茸』はたくさん出演者が登場する「大勢狂言」の中のひとつで、和泉流では「茸(くさびら)」と表記しますが、大蔵流では、「菌(くさびら)」と表記するなど、とてもポピュラーな演目です。今回は、この演目で児童生徒さんたちと、本物の狂言師が共演することで、多感な時期の児童・生徒にとってめったに得られることのない貴重な体験になり、狂言への興味や印象を一層深く残すことを期待します。</p> <p>また、児童・生徒同士、先生、出演者と協力して一緒に舞台を作り上げることは、共演者として一体感が生まれ、お互いのコミュニケーション能力を高めます。観客の児童生徒は、自分の身近な人間が舞台に出ていることで、より親近感がわき、狂言をもっと身近に感じているようです。実際に児童・生徒が登場するやいなや、会場からあたたかい笑いがあふれ出し、出演の児童生徒が作った「面」を見て、その色とりどりの模様や形のおもしろさを楽しんでいます。</p> <p>本公演の中で児童・生徒は自分でつくった「面」をつけて舞台上に登場します。自分で想像したオリジナルのキノコの面を作ることによって想像力と表現力を身につけることができます。</p> <p>最初は小さな声だった児童・生徒がお稽古を終えるころには、大きな声で自然とあいさつができるようになり、そのお稽古の様子を見ていた先生も狂言師の真剣なお稽古の様子を見て自然と背筋を伸ばして正座をしながら児童生徒の練習を見守っています。</p>
<p style="text-align: center;">児童・生徒の共演、参加又は体験の形態</p>	<p>○ 狂言「茸」出演者—キノコ役…12名(できれば各学年から選出) 鬼茸役…先生1名</p> <p>内容————事前ワークショップで狂言「茸」のお稽古をします。</p> <p>※元気に大きな声が出せる、児童生徒、先生を立候補にて選出願います。 また本来は基礎を忘れずに稽古を何度も繰り返します。 なるべく全員で集まれる時間を作って稽古を重ねて本番に臨んでください。</p> <p>※ 出来るだけ年代層が広がっているほうが大小様々な茸が登場して面白く表現できますが、授業の関係などで難しい場合は臨機応変におこなえます</p> <p>※ 狂言師は礼儀の仕方からはじまり、真剣に児童・生徒たちと向き合って指導します。 この共演で、一つのものを完成させるという目標のもと、指導者と児童・生徒が一丸となって稽古します。</p> <p>○ 全員参加—狂言の基本所作を学ぶ(礼儀作法、あいさつ) 狂言のセリフを実際に体験狂言の謡「鬼(うさぎ)」を謡う</p>

出演者	三宅右矩／三宅近成／高澤祐介／前田晃一／吉川秀樹／河路雅義／大塚出／金田弘明など三宅狂言会(和泉流)から5名					
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含 む	出演者: 5 名	運搬			積載量: 1 t	
	スタッフ: 4 名				車長: 5.31 m	
	合計: 9 名				台数: 2 台	
本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		3	時間程度
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8:30	9:00-11:00	13:30-15:00	15分	15:00-17:00	17時00分
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。						
本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決 定後に確認します。(大幅な変更は認 められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	20日	14日	9日	21日	21日	
	11月	12月	1月	計	140日	
	21日	16日	18日			
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。						
児童・生徒の 参加可能人数	本公演		共演人数目安	12名～(ご希望の場合は全校生徒でも可)		
			鑑賞人数目安	700名		
公演に係るビジュ アルイメージ (舞台の規模や演出や がわかる写真) ※採択決定後、採 択団体へ図面等詳 細の提出をお願い				1 (1) 体育館のフロアに舞台を設置した状態。児童・生徒さんたちは間近で舞台をお楽しみいただけます。体育館が狭い場合などは相談しながら臨機応変に対応させていただきます。		
				2 (2) 舞台の裏側を「草」役の児童・生徒が着替える楽屋として使用します。公演前に、共演者と挨拶を交わして本番に臨みます。		
				3 (3) 「草」役の児童・生徒が舞台へ登場するシーン。		
				4 (4) 狂言「草」公演の様子。児童・生徒と出演者が本物の舞台で共演します。		

A区分・B区分・C区分共通

No.3(実演芸術)

【公演団体名 一般社団法人 三宅狂言会 】

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	12名～(ご希望の場合は全校生徒も可能です。) ※茸役12名+先生1名 謡『兎』を謡う(全校生徒)
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>ワークショップは次のパターンからご選択いただけます</p> <p>その1 キノコ役12名+鬼茸役先生1名参加……………狂言『茸』のお稽古(90分) 詳細は別添へ</p> <p>その2 クラスで参加 キノコ役12名+鬼茸役先生1名……………狂言『茸』のお稽古(90分) その他の児童 ………………謡『兎(うさぎ)』のお稽古(45分)</p> <p>その3 全校児童・生徒参加 全校児童・生徒参加……………午前中 みんなで楽しむ狂言体験(午前中45分) キノコ役12名+鬼茸役先生1名……………午後 狂言『茸』のお稽古(90分)</p> <p>みんなで楽しむ狂言教室</p> <p>1, はじまりのあいさつ まずは狂言師と児童生徒がお互いあいさつをして狂言教室の時間がはじまります</p> <p>2, みんなで狂言体験をしよう 狂言の歴史、成り立ちなどを簡単に解説したあと、 狂言のかまえ(姿勢)、すり足(歩き方)、発声(大声で大笑い)など 狂言の基本所作を全員で一緒に行います</p> <p>3, 狂言の謡「兎(うさぎ)」を全員で謡い、舞います。 数名(3人～20人)の立候補の児童生徒がいれば、 本公演では狂言の他に舞の発表もしていただけます。</p>		

ワークショップの
ねらい

<事前ワークショップのねらい>

「自分たちで一つの作品を作り上げる」

この舞台の主演は、児童生徒と先生自身です。鬼茸を先生が演じ、児童生徒が主演となって、実際の舞台上で演じることに大きな特色があります。

狂言では、お客様に楽しんでもらうために、きびしい稽古を重ねて舞台に出ます。体験する児童・生徒には、一つのことに取り組むことの大切さ、うまくできたときの達成感などを感じていただき、今後何かをやり遂げる時には、この経験を思い出して一つのことをやり遂げる力をつけてもらいたいと思います。

「演技力、表現力を磨く」

児童生徒が演じるキノコはさまざま。ちょこちょこと可愛い動きの子のキノコや、しっかりした動きのキノコ。鬼茸役の先生の怖くも威厳のある動き。それぞれ個性的なキノコたちが舞台上で動き回り、創造性や演じる力を高めることができます。

「共演で得られるもの」

各学年から参加児童・生徒がそれぞれ集まり一つのことをやり遂げる。すると、参加児童同士が自主的に教え合い、高学年の児童が低学年の児童をフォローするなどコミュニケーションが生まれます。また自分自身の個性を磨くだけでなく、他の人の動きを観察して、自分との違いを研究するなど自分を客観視することもできます。お互い協力して舞台を作り上げることで、チームとしての団結力が深まるばかりではなく、他の人よりも、もっと大きな声を出そうなどの、いい意味での対抗意識が生まれ、物事に取り組む意欲が高まる効果があります。

指導者は児童生徒と真剣に取り組めます。児童生徒はその期待に答えようと一生懸命取り組んで、お互いの信頼関係が築き上げられます。

「想像力・製作力が高まる」

自分の想像力を駆使して、キノコの「面」をつくります。児童生徒の自由な発想でデザインしたものは面白く、舞台をより一層豊かにさせることができ、児童・生徒それぞれの個性を表現する力が高まります。先生、友達、家族の方々と話し合いながらオリジナルの「面」づくりを楽しみながら作成しましょう。

※ 説明書はあくまでも作り方の一例としてお渡しします。作る素材も自由に考えさせることで面白いものが出来上がります。(児童生徒の自由な発想を大事に)

<本公演>

「狂言の楽しさを全員で体験する」

児童生徒に、実際の狂言の舞台を体験してもらうことで、表現力、想像力を豊かにし、伝統芸能をより身近に感じることができます。稽古の前にはきちんと狂言師とお辞儀をしてお稽古に臨みます。

その他ワークショップに
関する特記事項等

(5) 「茸」の練習について

体育館のフロアでキノコ役の動きを練習します。しゃがんだ格好のままフロア内を動き廻りますので体操着など動きやすい服装（スカート不可）で行います。

鬼茸（おにたけ）役の先生も一緒に練習します。※その他の詳細は別添へ



リンク先 No.2

【公演団体名 一般社団法人 三宅狂言会 】

公演のまえに

体育館が能舞台に!





舞台のほうから
一の松、二の松、三の松と
順に小さくして遠近感をだしている

鏡板
老松が描かれた装置
歌舞伎では松羽目と
呼ばれている

切戸
ちいさな扉になっていて
きのご役の児童・生徒は
ここからも登場してきます

本物の装束

出演者は脚絆をつけて
足袋をはき本物の装束を
身にまどって登場します



揚幕(あげまく)
演者が入り出すときに竹竿で幕を上げ下げする
きのご役の児童・生徒はここから登場してきます

体育館に本格的な能舞台をつくり、児童生徒の視覚を刺激します。
能舞台の正面の松には神が宿ると言われ、狂言を演じる舞台は神聖な場所です。
出演の子どもたちは普段は着ることのない装束を身にまとうことで、演技者として
舞台に出る喜びを深く感じるようになります。

演目概要

狂言ミニ 舞台へ向かう入口に狂言博物館を設置。狂言の装束や『茸(くさびら)』
博物館の展示 で使う鬼茸の面を展示し、これから始まる狂言の雰囲気を一層高めます



狂言の装束

装束には季節の柄やおめでたい柄など
大胆でおもしろい柄がデザインされている。

おもしろい面の数々

先生が演じる鬼茸の面の他にも狂言には天狗や猿など、様々な面があります。
今回の『茸』にはどのようなおもしろい面がでてくるかお楽しみに。



第1部

1、狂言の解説 ～狂言ってなんだろう?～

初めて狂言、伝統芸能の世界に触れる児童生徒のために、簡単な歴史や、能舞台のしくみ、役割、狂言の衣裳、装束(しょうぞく)、狂言独特の演出方法などを実演をまじえながらわかりやすく解説します



狂言について
わかりやすくおはなしします

狂言の歴史・特徴・見どころ

狂言の衣裳のあれこれ

狂言に登場するゆかいなキャラクター
など

演目概要

2、狂言「盆山 ぼんさん」 実演を交えた狂言の特徴について

狂言「盆山」は狂言で表現される基本的な所作(足、手、腰の動き)、セリフ、擬音などの特徴がふんだんに盛り込まれております。

狂言の特徴

名乗り……「このあたりの者でござる」など名乗り、自分が何者かを観客に知らせます
道行き……セリフを言いながら能舞台の柱に沿って三角に歩き目的地まで向かう様子
擬音……垣根をのこぎりで切る音、垣根を破る音や動物の鳴き真似をする様子など

【盆山あらすじ】

室町時代は「盆山(盆の上に岩を置いた置物)」が大流行。
この盆山を一つも持っていない男が、ある夜、友達の屋敷に忍び込んで盗もうとします。
ところが大きな物音を立ててしまい、あっという間に見つかってしまいます。
盗人が顔見知りだと気づいた友達は大笑い。男を散々にからかってやろうと、
色々な動物の鳴き真似をさせるのですが…

盆山を見た後は、狂言「茸」に出演する児童生徒をみんなで送ります
狂言「茸」に狂言師として出演する代表の児童生徒たちが、装束(狂言の衣裳)に着替えるために
楽屋へ移動します。みんなで声援をおくりましょう!

出演者が狂言の装束を着付けながら、言葉をかけて緊張をほぐしていきます
装束に着替えた児童生徒は大興奮!何度も鏡で自分の姿を見たり、友達同士で
ほめ合ったりと気分は最高潮に!



演目概要

出演者が衣裳をつける場面も見ることができるのは
貴重な体験です

共演者として出演する狂言師と
きちんと正座をして向き合いあいさつを
かわします



児童生徒同士お互い衣裳のチェックをします

児童生徒たちは、狂言の本物の装束(衣裳)を身につけます。
はじめて着る装束に子どもたちの気持ちも高まります。自分たちが想像して作成した^櫛面と
笠をつけて舞台にたつこの瞬間は、この舞台でしか味わえない
一生の思い出に残ることでしょう。

第2部
4、狂言「茸くさびら」～大勢狂言～

児童・生徒12名が
主役のキノコ役として出演

先生も
鬼役に変身!

桃て
面

自分たちで作成した
「面」をつけて登場!
キノコの独特の不思議な
世界を演出します



鬼茸(おにたけ)
先生も鬼茸役として出演



登場
人物

装束

本格的な狂言の装束を身につけ
舞台を華やかに彩ります



主人

家にキノコがたくさん
生えてきたので、
山伏に祈祷を
おねがいする



山伏

主人からの願いで
キノコを退治しようと
祈祷するが……

【あらすじ】

とある屋敷に、夜な夜な生えてくる巨大キノコ。
気味悪がったお屋敷の主人は霊験あらたかな山伏にお祓い
の祈祷を依頼します。さっそく屋敷に赴いた山伏が怪しげな祈
禱を始めると、無くなるどころか、どんどんキノコは増え続けます。
走りまわるキノコ、イタズラを仕掛けるキノコ。
屋敷中がキノコだらけになってしまい、必死になって祈る山伏を
尻目に、とうとうおどろおどろしい鬼茸まで登場し……。



演目概要



「ポーロンポロン」と山伏が祈祷を唱えれば唱えるほど



どんどんキノコがふえてゆきます



祈祷がやむとびたっと動きをとめるキノコたち



クライマックスでは鬼茸が出てきて……

カーテンコール

本日出演した児童生徒が最後に名前を呼ばれて出てきます。
ここではじめて面と笠を脱ぎ顔を出してあいさつします。
すると、あの茸はあの子だったのかと驚きの声があがります



ひとりひとり狂言師から名前を呼ばれて、自分の作った面と笠を見せて出てきます

鬼役の先生は誰なのか当日まで内緒



観客のみなさんにお礼の挨拶をして幕を閉じます。みんな演技をやり終えた達成感に笑みがこぼれます

演目概要



最後にみんなで記念撮影。忘れられない思い出のこります。終演後、最後までがんばった児童生徒たちと共演者とお互いにあいさつをします。

公演の効果

狂言師は真剣に児童生徒と向き合い、指導の熱意が自然と児童生徒に伝わります。最初小さい声だった児童生徒も、お稽古を終える頃にはきちんと正座をして大きな声で挨拶できるようになっています。その様子を見ていた先生までも背筋を伸ばして正座しながら児童生徒を見守っています。

自分たちが主役になって舞台に立つという責任を持った児童生徒は、自主的に稽古をし本番に臨みます。自主稽古中に喧嘩をしまい、そのことで貴重な練習時間を無駄にしたと先生に謝りにくる児童生徒もいて、先生がそのめざましい成長ぶりに驚いたそうです。この公演は、児童生徒と出演者が共演し、観客の児童生徒も参加して一つの舞台を創り上げていく唯一無二のプログラムです。

狂言「茸」のキノコ役のお稽古 ワークショップ時間 90分

参加者

キノコ役…12名 鬼茸役…先生 1名



選出方法

弊社のおすすめ

- ① 違う学年から選出。
- ② 同じ学年やクラスの中から選出。
違う学年から選出した時の効果(先生の感想より)
- 異学年の児童生徒たちが一つの目標に向かって共に頑張る楽しさや達成感を実感することができた
- 自主的に教え合ったり低学年の面倒を見たりする態度が育った

まずは足袋を履いてお稽古します。最近では足袋を履く機会がほとんどないので、履くことにも一苦労します。これも経験のひとつです。



ワークショップ
実施形態及び内容



礼にはじまり、礼に終わる。まずはあいさつして稽古にのぞみます。



茸(くさびら)の動き方の練習。舞台一杯にキノコ達が動き回り狂言師のセリフにあわせてピタッと動きをとめます。



体育館のフロアでキノコ役の動きを練習します。しゃがんだ格好のままフロア内を動き廻りますので体操着など動きやすい服装(スカート不可)で行います。鬼茸(おにたけ)役の先生も一緒に練習します。



鬼茸役の先生の練習
「とってかもお～」というセリフを大きな声を出して言う練習をします

ワークショップ終了後、各自本番までの宿題

本番で使用するキノコ役の面を創作!



作り方のテキストをお送りします

ワークショップ終了後、本公演までに舞台出演時に身につける面をオリジナルで作成します。児童生徒が想像を膨らませて作成した、世界に一つしかない狂言面を作り、狂言の舞台に挑みます。

材料の一部はこちらでご用意いたします。



いままで児童生徒がつくった作品の一部です

本番の公演で面と傘をつけて登場します

ワークショップ
実施形態及び内容

狂言の「面」について説明します

面をつくる効果

いままで上演してきた学校の反応をみてわかったこと

- 観客の児童生徒がそれぞれの「面」のおもしろさを楽しみながら見ている。
- 色とりどりの「面」は、庭に生えてきた怪しいキノコを表現するのに効果的。
- 児童生徒の想像力はとてもおもしろく、それぞれオリジナリティあふれる作品が生まれる。
- カーテンコールで面をはずして出てくると、あのおもしろい面を作ったのはあの子だったのか!と驚きがある。